

テモテへの手紙第二 第4章 2節

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

今日はどんよりと雲が空を覆う。それでもまだ雨が落ちてはいない。住宅街を巡り歩いていると、家々のたたずまいから生活の匂いが漂ってくる。どこからか子等の元気な声が聞こえてくる。通り路には幾つか高齢者施設もある。365日休みなくいのちのケアをしているところだ。生活を支え、生きる闘いに参与し、心身の労を注ぐ人達。厳しいなかで働くケアラーへの感謝がわく。

垣根に寒椿が繁っている。三輪ほどの紅花が通りの方を向いている。中心には黄色の花芯が見える。厚い雲からかすかにこぼれる光の方向に花は開いている。どんよりした空の下で、鮮やかな紅と輝くばかりの黄色を光の方に向けている。それを支える葉は厚く濃い緑となっている。このときに咲く力を各部分が精一杯出している。

花の精一杯が、通りを歩く者の目を楽しませてくれる。寒空の下で咲く三輪の花は周辺を明るくしている。花が少ないこの季節に咲き、それも通りに花の顔を向けてくれるのは贈り物だ。陽の光に向かい続け、曇天でも光の方に向き続けている証が垣根越の花に見える。